分岐水栓について

切り替えレバーを回して「原水」、「シャワー」、「整水」に切り替えることができます。

- 水道水を使う場合は、「原水」または「シャワー」に切り替えてお使いください。
- 整水（電解水素水／浄水／酸性水）を使う場合は、「整水」に切り替えてお使いください。

	水道水を使う場合		整水を使う場合
切り替えレバー			
切り替え表示	原水	シャワー	整水

お知らせ

- 整水の使用時は、以下のような場合に警告弁が動作し、警告音とともに分岐水栓から水が出ます。
  – 本器への高い水圧がかかっている
  – ホースが折れ曲がっている
  – ホースが正しく接続されていない
  – 浄水カートリッジに目詰まりがある

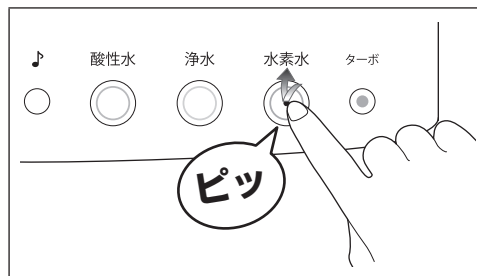
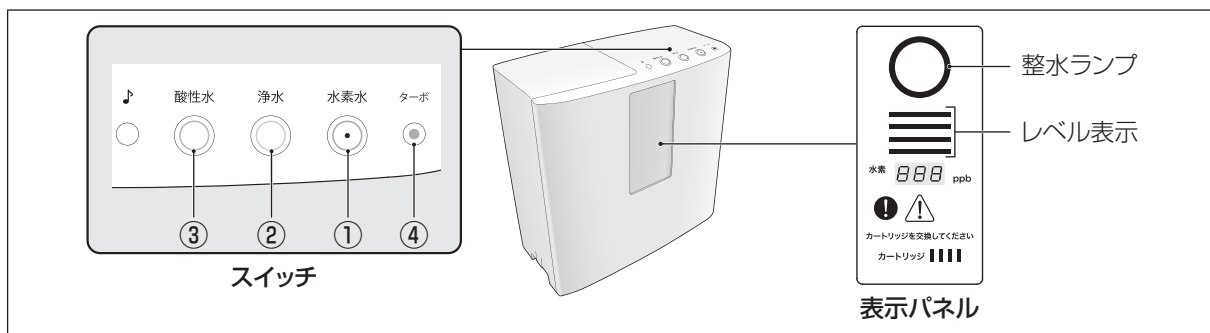
スイッチと表示パネルについて

スイッチについて

スイッチを操作すると、整水モード、レベル、ターボ機能、メロディ音／ブザー音／タッチ音の設定、通水量表示／水素量表示の切り替えができます。
また、表示パネルで整水のレベルや浄水カートリッジの残量などの情報をお知らせします。

■ タッチする

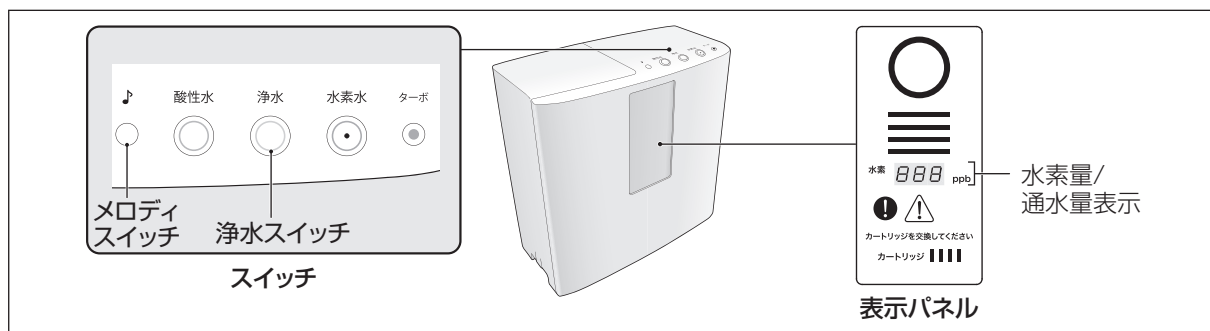
スイッチを押して離す

- タッチすると、「ピッ」とタッチ音が鳴ります。

整水モードについて

スイッチ	整水モード	レベル	用途	pH 目安※	レベル表示		整水ランプ（通水時）
① 水素水スイッチ	電解水素水モード	4	調理用	9.0 ～ 10.5		黄色点灯	白色点滅
		3	飲用	8.5 ～ 9.9		青色点灯	
		2	飲用	8.0 ～ 9.5			
		1	飲用	7.5 ～ 9.0			
② 浄水スイッチ	浄水モード		飲用	電解なし		緑色点灯	消灯
③ 酸性水スイッチ	酸性水モード	1	洗顔用	4.5 ～ 6.8		オレンジ色点灯	オレンジ色点滅
		2	洗浄用	3.5 ～ 5.5			
④ ターボスイッチ	ターボ機能 電解水素水モードで通水中にのみ操作できます。		pH が上がらない地域用			黄色点灯 （白色の表示が下から上にスクロール）	白色点滅

※ pH は水質（地域、季節、水温）によって異なります。
pH7 が中性、pH7 より大きい値がアルカリ性、小さい値が酸性です。

お知らせ

- 飲用範囲は電解水素水モードで pH10 を超えないレベルと浄水です。
- 1 ヶ月に 1 回以上 pH 値の測定 （P26）をし、電解水素水が pH の目安に入っているかをご確認ください。
- 電解水素水はレベル 3 で、1 日当たり 500 ミリリットル～ 1000 ミリリットル程度を目安に飲用してください。
- 本器に通水しているときは、整水モードを切り替えることはできません。

メロディ音を設定する

メロディ音を切り替えたり、音量を設定することができます。

メロディスイッチをタッチする

- 以下の順でメロディ音と音量の設定が切り替わります。
  本器に通水しながら設定すると、実際の音を確認しながら切り替えることができます。

メロディ音	カノン			→	切※	→	アンパンマンのマーチ			→	切※
音量	小	→	大				小	→	大		

- 電解水素水モード時に本器に通水するとメロディ音が流れます。
  メロディ音は２種類から選択できます。
- 酸性水モード時に本器に通水すると、「ピピッ、ピピッ、…」とブザー音が鳴ります。
- 浄水モード時に本器に通水しても、メロディ音／ブザー音は鳴りません。

※ 音量が「切」に設定されていても、タッチ音とブザー音は鳴ります。

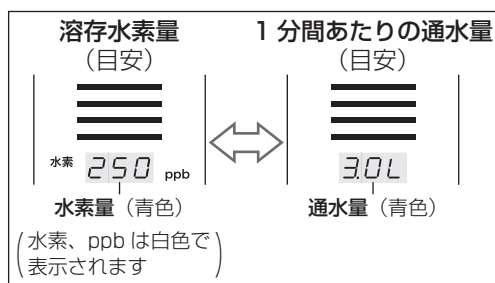
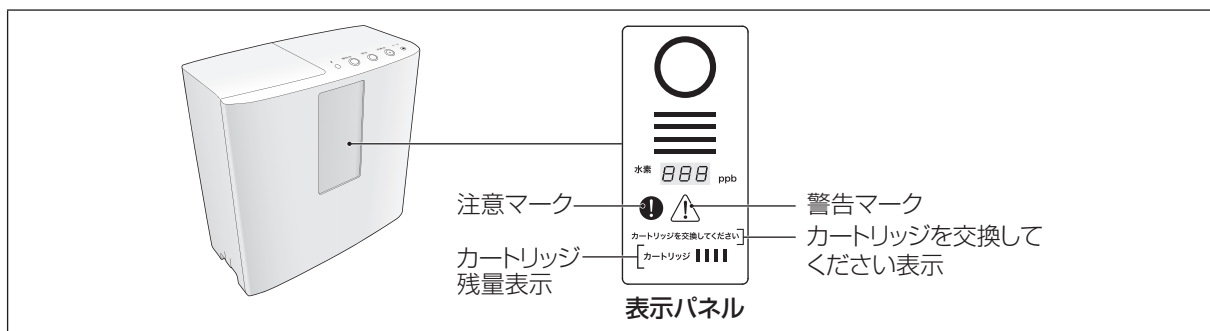
お知らせ

- お買い上げ時の設定は、メロディ音「カノン」、音量「小」です。
- 「カノン」（作曲者：ヨハン・パッヘルベル）
  「アンパンマンのマーチ」（作曲者：三木 たかし／ JASRAC T-1410035）

水素量表示／通水量表示を切り替える

電解水素水モードで通水中に、浄水スイッチをタッチし続ける（約２秒間）

電解水素水モードで本器に通水中の表示パネルの表示は、溶存水素量※（目安）と毎分あたりの通水量（目安）を切り替えることができます。

- 通水量表示は分岐水栓からの取水量と排水ホースからの排水量の合計です。

※ 溶存水素量とは、溶け込んでいる水素ガスの濃度を示す値です。
　例：250 ppb は 1 L（リットル）中に 250 µg の水素ガスが溶け込んでいます。
※ 水素量表示は電解条件により算出した推測値です。

カートリッジ残量表示について

カートリッジ残量表示は、整水の使用量、または使用開始してからの期間の早いほうを表示します。
カートリッジの交換時期が近づくと、注意マークと音声メッセージでお知らせします。（P33）

カートリッジ残量表示	整水の使用量※1	カートリッジ使用期間
カートリッジ ▌▌▌▌	2000 リットル未満	3か月未満
カートリッジ ▌▌▌	2000 リットル以上	3か月以上
カートリッジ ▌▌	4000 リットル以上	6か月以上
カートリッジ ▌	6000 リットル以上	9か月以上
カートリッジ ▌ ※2（点滅）	残り 150 リットル未満	残り 7 日未満
カートリッジ ※3（非表示）	8000 リットル以上	12か月以上

※1 整水の使用量は分岐水栓からの取水量と排水ホースからの排水量の合計です。
※2 表示パネルに注意マークが表示され、「カートリッジの交換時期が近づいています」の音声メッセージが流れます。交換用の浄水カートリッジ（別売品）をご用意ください。（P38）
※3 表示パネルのカートリッジ残量表示が非表示となり、注意マークとカートリッジを交換してください表示が表示され、音声メッセージが流れます。新しい浄水カートリッジに交換してください。

注意マーク / 警告マークについて

浄水カートリッジの交換時期が近づいている場合や、本器が正常に動作していない場合などに、表示パネルにお知らせします。（P33）

マーク	説明
注意マーク（オレンジ色点灯）	注意が必要なときにお知らせします。注意マークが表示され音声メッセージやブザー音と合わせてお知らせします。（P33）
警告マーク（赤色点灯）	異常が生じた時にお知らせします。警告マークが表示され音声メッセージやブザー音と合わせてお知らせします。（P33）

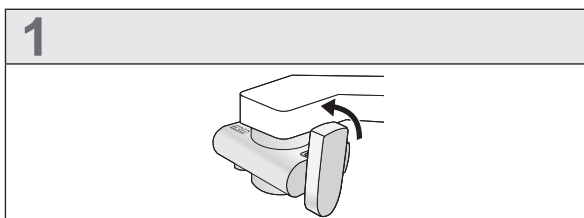
整水を使う

電解水素水 / 浄水 / 酸性水を使う

ご使用前に次のことを確認してください。

- 必ず「安全上のご注意」（P2 ～ 5）と「大事なお知らせ」（P6）をお読みください。
- 初めて整水を使用する場合は酸性水モード（レベル2）で約５分間本器に通水してください。（P26）
- 電解水素水 / 浄水の毎日の使い始めは、本器内部に残った水の入れ替えおよびカルシウムの付着を抑制するため、酸性水モード（レベル２）で本器に通水してください。（P26）
- 電解水素水を初めて使用するときは、飲用する前に付属のpH測定キットでpH測定を行ってください。その後もpH測定を定期的に行ってください。（１か月に１回以上）（P26）
- 酸性水と、pH10以上の電解水素水は飲用できません。

1 分岐水栓の切り替えレバーを回して、「整水」に切り替える（P20）

1

2 スイッチをタッチし 、用途に合わせて整水モードを切り替える（P21）

3 レベルを切り替える

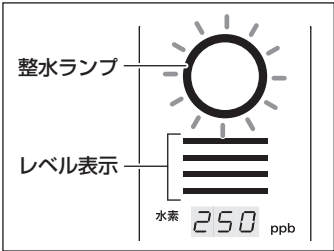
（電解水素水モード / 酸性水モードに切り替えた場合）

選択した整水モードのスイッチをタッチするたびに、レベルが切り替わります。

	レベル	レベル表示	用途例	pH の目安	整水ランプの点滅（通水時）
電解水素水モード	4		調理用、煮物、あく抜きなどに	9.0 ～ 10.5	速い
	3		飲用、コーヒー、お茶、鍋物、汁物などに	8.5 ～ 9.9	↕
	2		飲用、お米を炊くとき	8.0 ～ 9.5	
	1		飲用、初めて飲むとき	7.5 ～ 9.0	ゆっくり
酸性水モード	1		洗顔用（肌に近い弱酸性です）	4.5 ～ 6.8	ゆっくり ↕
	2		食器などの洗浄用	3.5 ～ 5.5	速い

4 水栓（蛇口）を開けて水を出す

- 分岐水栓の取水口から整水が出ます。

電解水素水モード	● 安定した電解水素水が出始めると、メロディ音が流れます。 ● 整水ランプが白色で点滅し、水素量または通水量を表示します。（P22）
浄水モード	● 2 ～ 3 秒後から安定した浄水が出ます。 ● メロディ音 / ブザー音は鳴りません。
酸性水モード	● 安定した酸性水が出始めると、ブザー音が「ピピッ、ピピッ、…」と鳴ります。 ● 整水ランプがオレンジ色で点滅します。

- 電解水素水と酸性水は本器への 1 分間あたりの通水量が 1 リットル以上にならないと生成されません。
- 8 分間以上連続で本器に通水した場合、レベル表示が点滅し、レベルが下がることがあります。
- 電解水素水モードと酸性水モードで 20 分間通水を続けると、電解槽洗浄のためにバルブが回転します。

5 水栓（蛇口）を閉めて水を止める

- メロディ音 / ブザー音が止まります。
- 約 5 ～ 15 秒経過するとすべての表示が消灯し、本器は節電待機状態になります。
- 水を止めるとバルブが回る音がすることがあります。

お知らせ

電解水素水モード
● 電解水素水は、1 日当たり 500 ミリリットル～ 1000 ミリリットル程度を目安に飲用してください。 ● 生成水は生成後なるべく早く飲用してください。また、電解水素水を保存する場合は、清潔なペットボトルなどの密閉容器に入れ冷蔵庫で保存し、2 日以内に飲用してください。 ● 電解水素水に含まれる水素は、時間の経過とともに徐々に減っていきますので、なるべく早く使用してください。 ● 電解水素水を氷にする場合は、お使いの冷蔵庫や製氷機の取り扱い方法に従って使用してください。 ● 薬の服用時、または乳児のミルク用の水には電解水素水を使用せず浄水をお使いください。

浄水モード
● 浄水は、ろ過した不純物の少ない水です。電気分解はされていません。 ● 生成水は生成後なるべく早く飲用してください。また、浄水を保存する場合は、清潔なペットボトルなどの密閉容器に入れ冷蔵庫で保存し、2 日以内に飲用してください。

（次ページへ続く）

酸性水モード

- 酸性水を保存する場合は、清潔なペットボトルなどの密閉容器に入れて保存してください。
  酸性水は飲用できませんので、保存の際はラベル書きなどをして、間違えて飲用しないように気を付けてください。
- 電解水素水 / 浄水の毎日の使い始めは、本器内部に残った水の入れ替えおよびカルシウムの付着を抑制するため、酸性水モード（レベル2）で本器に通水してください。
  通水時間の目安は以下のとおりです。

毎日の使い始め	約30秒
1日使用しなかったとき	約1分間
2日以上使用しなかったとき	約3分間
1週間使用しなかったとき	約5分間
初めてご使用のとき、 またはカートリッジ交換時	約5分間
※1ケ月以上使用しなかったときは、カートリッジの交換をお勧めします。	

※水の硬度が高い地域では、左表の通水の他に、就寝前に酸性水モードで30秒～1分間通水してください。カルシウムの詰まりによる故障の防止になります。

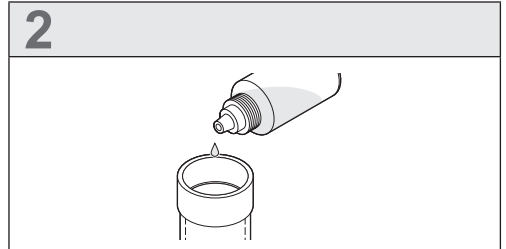
電解水素水のpH測定と調整をする

■ 電解水素水のpH測定をする

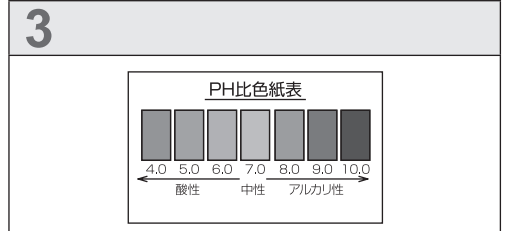
お住いの地域によってpHは異なりますので、電解水素水を初めて使用するときは、飲用する前に付属のpH測定キットでpH測定を行ってください。その後もpH測定を定期的に行ってください。（1か月に1回以上）

1 電解水素水を専用カップの8分目まで入れる

2 pH測定液を専用カップに1滴落とす

2

3 変色した電解水素水をPH比色紙表と比較する

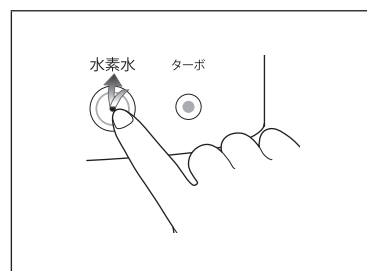
- PH比色紙表はpH目安を測るものです。
- pH9.5（PH比色紙表9.0～10.0の間の色）が飲用に適していますが、初めて飲用する方は、レベル1で少量から飲用してください。

3

お知らせ

	pH10以上の水は飲用しないでください。 ● pHは、水質（地域、季節、水温）や本器への通水量などで変わります。 電解水素水を飲用するときは、使用開始時および1か月に1回以上、付属のpH測定液でpH測定を行い、pH9.5（PH比色紙表9.0～10.0の間の色）であることを確認してから飲用してください。
	pH測定液を目に入れたり、飲んだりしないでください。（P4） pH測定液は必ずふたをして、乳幼児の手の届かない所に保管してください。また、火気には近づけないでください。
	pH測定に使用した電解水素水は飲まないでください。

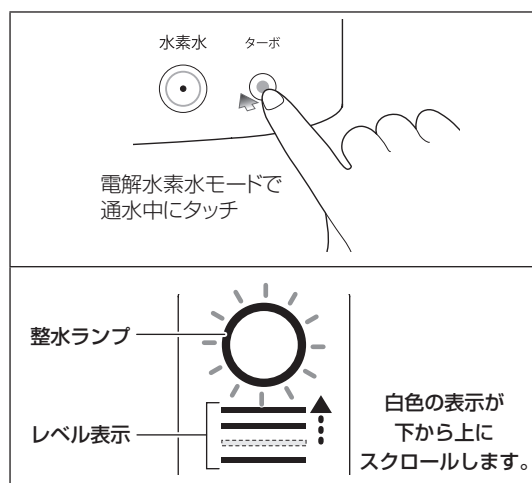
■ 電解水素水のpHを調整するには

水素水スイッチをタッチし、電解水素水モードのレベルを変更する（P21）

- 水素水レベル1～3のpHを測定し、pH9.5（PH比色紙表9.0～10.0の間の色）になったレベルの電解水素水を飲用してください。
- 初めて飲用する方は、水素水レベル1で少量から飲用してください。

■ ターボ機能を使う

水質などにより飲用に適したpHに上がらない場合、ターボ機能でpHの高い電解水素水を生成できます。

電解水素水モード（P24）で通水中に、ターボスイッチをタッチする

- ターボ機能は、約60秒間使用するか、止水すると自動的に解除されます。
- ターボスイッチまたは水素水スイッチをタッチすることでも解除できます。

お知らせ

- 飲用する場合は、pHを測定し（P26）、pH10未満であることを確認してからご使用ください。
- 「ピピピ」とブザー音が鳴りターボ機能が使用できない場合があります。本体の保護機能が働いていますので、止水してしばらくお待ちいただいてからご使用ください。

クロスラインについて

電解水素水／酸性水を生成する時には、電気分解が行われ、水の中に含まれるミネラル等が電極に付着し、電解能力が低下してしまいます。
本器では、安定した水質の電解水素水／酸性水を長期間ご利用いただくために、「ダブル・オートチェンジ・クロスライン方式」を採用しており、定期的に電極極性と水路のバルブを切り換えることで、電解能力を維持しています。

バルブ動作条件	バルブ動作時間
電解水素水／酸性水モードで通水を３回行った後	約５秒間または約 12 秒間
電解水素水モード／酸性水モードで通水を 20 分間続けた時	
電解水素水モード／酸性水モードから浄水モードに切り換えた時	約３秒間
浄水モードから電解水素水モード／酸性水モードに切り換えた時	

お知らせ

- バルブが動作している時に本器に通水すると「蛇口を閉じてください」と音声メッセージが流れることがあります。（P33）